重点１　毎日の授業の充実

５　博物館との連携

ね　ら　い

博物館には，学校，家庭にはない膨大な資料と情報の蓄積や高性能な機材があり，更にそれを専門に扱う職員がいます。博物館と学校が連携してこれらを活用することは，学校の「教育力」を向上させる大きな力の一つとなり、毎日の授業のさらなる充実につながると考えます。

そこで，博物館では，「学ぶ楽しさ」を味わう学習活動を展開することを目的に，学校と積極的に連携，協力を図りながら，体験などを取り入れた学習支援活動を実施しています。

現状と課題

○　常設展示室

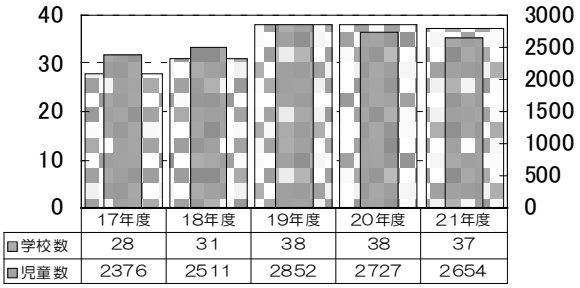
常設展示室では，年間を通して学習支援展示を実施しています。小学校 6 年生を対象とした「大昔の四日市―弥生時代と古墳時代」，全学年を対象とした「四日市空襲と戦時下の暮らし」，※「四日市港の歴史」，※「四日市の焼き物―萬古焼」，※「東海道と四日市」や，小学校３年生を対象とした「むかしのくらし」です。

【※はいずれかのテーマで実施】

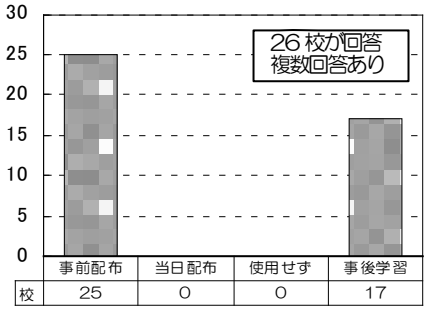
＜学習支援展示「むかしのくらし」団体見学利用状況＞

「むかしのくらし」は社会科の学習支援として授業をより充実させるために，実際の道具の展示・体験，ボランティアによる体験談，ワークシートなどを活用しました。ワークシートは，ほとんどの学校で利用していただき，事前学習や事後学習などの活動を支援することができました。

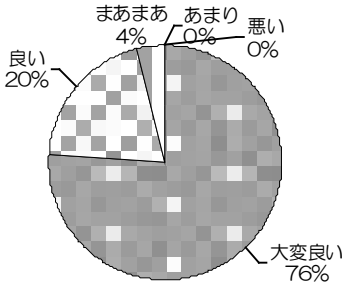
【見学校推移】



【ワークシート利用状況】



【教職員の満足度】



また，学校との事前打ち合せも充実させたことで，博物館の意図を教職員にも理解してもらうことができ，事前学習・見学当日・事後学習の流れが各学校の学習状況に合わせることができました。見学当日は博物館職員，ボランティア，教職員が連携･協力を図ることができ，子どもたちが校内だけでは得られない体験に，興味・関心をもって学習に取り組んでいました。

「むかしのくらし」以外の学習支援展示もより多くの学校で利用していただけるように，教職員を対象とした「体験的博物館講座」などで，展示内容や資料，体験グッズなどの情報を提供し，学習支援の展開や効果について広く呼びかけていきます。

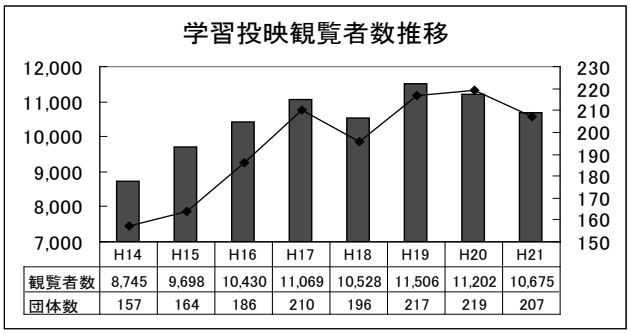
○　プラネタリウム

プラネタリウムでは，学習支援活動を大きく２つに分けて実施しています。

①　学習投映

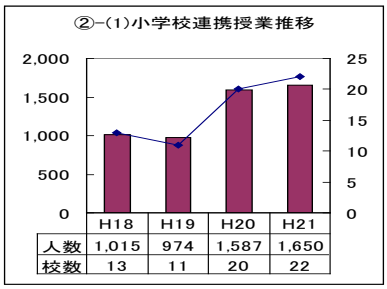
全学年を対象に学習投映を実施し，星の動きや見つけ方，月の満ち欠けなどについて学びます。

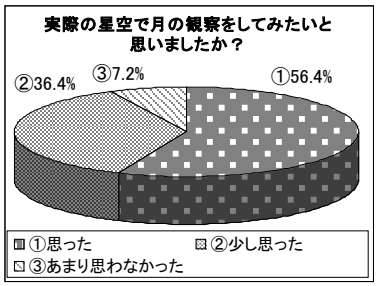
評　価　項　目	５段階評価（平均）
児童が星に興味をもった	４．５
理解できる内容であった	４．３
今後の学習に活かせる	４．６

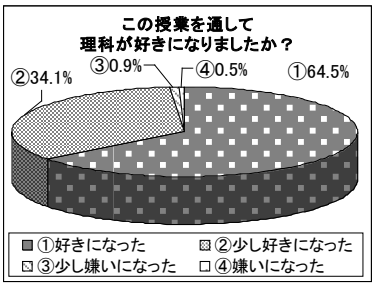


②　連携授業

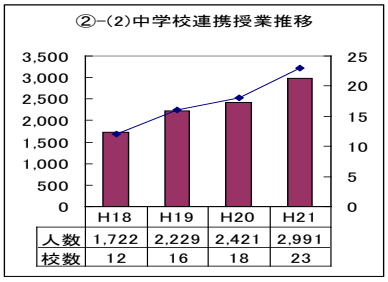
(A)　立体映像（３Ｄ）装置を活用した天体の授業（対象：小学校４年生）

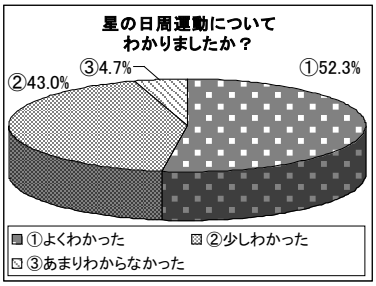


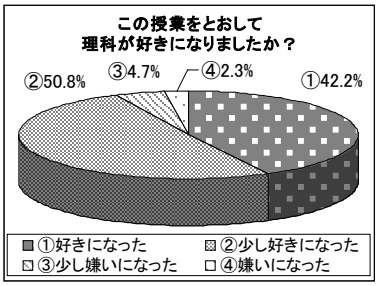




(B)　移動式プラネタリウムを活用した天体の授業（対象：中学校３年生）







プラネタリウムや立体映像装置を活用した授業は，天候に関係なく星空を再現できるため，授業計画が立てやすいという利点があります。また，ドームを使った学習は，３次元的な視点で天体の動きを捉えることができます。このことで，子どもたちは日々の授業に沿って学習でき，「学ぶ楽しさ」を実感することができました。また，３Ｄによる疑似体験を取り入れたことで，理科・科学への学習意欲の向上も見られました。

今後も「学ぶ楽しさ」を味わう授業を実施できるように，各学校と協力し積極的に連携を深めます。

今後の方向性

○　学習指導要領の改訂に伴い，展示内容を工夫するとともに，体験グッズやワークシートの充実を図り，より発展的な学習ができるようにします。

○　学習意欲を高めるため，子どもたちの身近な素材を活かし，天文や理科に興味をもってもらえるコンテンツを数多く制作します。

○　各学校の授業の進捗に合わせて，学校投映や連携授業などをより柔軟に展開していきます。